

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290400056		
法人名	ヘルスケアサポート株式会社		
事業所名	グループホーム伊東 A		
所在地	静岡県伊東市富戸1105-25		
自己評価作成日	平成27年3月31日	評価結果市町村受理日	平成27年7月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

皆が主役・皆で楽しく・皆が元気という基本理念に則り、入居者様おひとりおひとりの生活を尊重し、その人らしい生活が送れるよう、またおひとりおひとりが自信を持って、毎日を楽しく過ごせるよう最新の介護技術を取り入れながらケアをさせていただきます。
地域の住民の皆様との交流も大事にしながら、豊かで静かな自然環境の中で、アットホームな運営を心掛けております。
高原の別荘のような造りで、吹き抜けの天井にある天窓からは自然光が降り注ぎ、ご家族の方々がご自分の別荘のように気軽に面会に訪れていただけるようなオープンで明るいホームだと自負しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2290400056-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

気候が穏やかな風光明媚な別荘の多い所に位置して、外観も周りに溶け込んでいる。平屋建てで天井が高く空間にゆとりがある。地域の人が協力的で、年に2回地域の草取りの後、事業所の広い中庭の草取りをしてくれる。草取り後は、集まった地域の方々と職員、入居者が交流している。協力医とは医療連携が取れていて、往診はもちろん24時間電話連絡が可能であり、入居者の体調や他科受診や薬のことなど相談でき、終末期には家族への説明や対応の相談ができる。家族が遠方の入居者の受診を事業所が支援するなど入居者の不安を軽減する対応を心がけている。介護計画は居室担当職員が日常の様子を直接家族に電話や口頭で伝え、家族から質問があれば説明し要望を聞き反映している。日常のようすを詳しく把握している職員からの連絡で家族も信頼している。職員は年齢に幅があり、入居者の思いを大切に支援している姿が伺えた。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年 4月23日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送り、ユニット会議などで、職員に日頃の活動の報告を受け、業務内容について、自己点検、アドバイス、改善を図っていく。	理念について、状況に応じて口頭で共有し実践に繋げている。トラブルや事故等があったときには、全員に回覧板を回し内容を把握してもらい対応を相談している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事の参加、地元への理解が得られるよう努めている。施設中庭をお茶の場に提供し交流を深めている。町内のお祭りに浴衣を着て参加している。	自治会に入り回覧板で情報を把握できる。年2回地域の草取り後引続き中庭の草取りをして頂き、椅子を直してもらったり畑の作業を指導してもらっている。近隣の人とは散歩中の挨拶や野菜やみかんのおすそわけをいただくなど交流が有る。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の認知症あんしんマップに参加し、地域の認知症の相談機関として登録している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の方針、日頃の行事、活動内容の報告でサービスの説明を図り、同時にご家族の要望・ニーズの把握につとめ、介護に反映させている。	25年6月より会社がNPO法人から株式会社になったため、事業所の業務整理に時間を費やし、運営推進会議が開催できなかった。市からも会議の実施指導を受け、今後は開催に向けて準備をする意向である。	運営推進会議の意義と目的を把握し、今後のサービス向上に活かして行くよう定期的な開催を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の認知症あんしんマップに参加し、地域の認知症の相談機関として登録している。地域包括支援センターの会議、研修に出席している。	市へは解らないことや相談事を電話で聞いたり、生活保護者の現状報告で社会福祉課へ行っている。管理者は介護保険認定調査員を施設長は介護保険連絡部会の会長を引受るなど市に協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に身体拘束をしないケアを周知徹底させ理解させている。	身体拘束やスピーチロックについて、職員は認識しお互いに注意しあっている。新人職員には先輩職員が教えている。施設の外は急な坂道や森があるので家族の要望と了承を得て、市に届けを出し、玄関の施錠をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に虐待等が起こらないように気を配り、毎日職員からの報告を受けている。介護記録を書かせチェックもしている。		

静岡県(グループホーム伊東 A)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症講習会参加などを通して、理解の向上と実践について学ぶ。ご家族との連絡を密にして、利用者の取り巻く環境の向上を図る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書による周知や、家族会などを開催し、改定などの際は十分な説明を行っている。契約時には丁寧な説明はもちろんの事、じっくりと見学をしてもらい、疑問が残らないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会議の開催や、面会来所時の家族と担当者の会話などを介護職員全員に周知させている。家族とのコミュニケーションを大事にしている。	家族は訪問すると居室に入らず入居者がいるリビングで入居者や職員と過ごすため、意見や要望を聞く機会がある。また事業所は何事も家族と相談して行っている。例として居室担当職員を家族の要望で男性から女性に変更した事がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や、日々の申し送りや連絡ノートを利用し、絶えず個々の意見を吸い上げ、改善を行う。オープンに意見が言える職場の雰囲気づくりを心掛けている。	事業所は職員が施設長や管理者に会議や日常いつでも意見や提案が言える環境である。例として入居者が高齢になり、見やすいように大きなスクリーンのテレビを購入してほしいと意見が出て、購入し、入居者はテレビ体操を毎回やる等活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部にて行われる施設長連絡会議等を通して本部との意思疎通を図り、介護現場へ反映させていく。代表者と直接話せるホットラインを設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症講習会参加などを通して、理解の向上と実践について学ぶ。ご家族との連絡を密にして、利用者の取り巻く環境の向上を図る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護事業者の会に加盟し、定期的に同業者の会合、勉強会に参加し情報交換や見学会等様々な交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の望み、不安、困りごと等を日々の介護を通して、解決できるよう努めている。出来ること、出来ないことシートやセンター方式も活用している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、不安などを受け止め、早期にご家族も安心して本人をホームに任せられる信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネ、管理者、介護職員で十分に話し合いをしケアプランを作成し、最適なケアを提供できるように努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の今までの人生、趣向なども考慮し一方的ならない介護を構築していく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いままではご家族がされてきた介護やご本人との生活を考慮に入れ、家族の絆が切れる事のない関係、介護を常に考えながら支えていく。日常のご様子を報告する手紙、日常のスナップ写真の展示など。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人がいつでも気軽に遊びに訪れることが出来る雰囲気、環境づくりを心掛けている。	事業所への訪問は歓迎するよう制限をできるだけ設けないように心がけている。町内会の繋がりでの訪問があったり、出入りの食材業者がボランティアで来てくれたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が和気藹々と楽しく過ごせる環境、雰囲気づくりに重点を置いている。座席の配置にも最新の注意を払っている。		

静岡県(グループホーム伊東 A)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の要望にそって適切な支援を行い、地域の中での信頼を壊さないよう努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、一人一人の入居者とマンツーマンで向き合いお話を傾聴することを心掛けている。わからないことは家族に聞いている。	精神的に気分の変化が激しく、理解が困難な入居者や情報シートのみでは判断できない場合は家族に電話をして聞いている。例えば以前、すぐに衣服を脱いでしまう入居者がいて原因は24時間入浴可能な温泉のお風呂が家にあったことがわかった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族との対話に努め、昔の生活、性格、趣味嗜好などを入居時だけではなく、事あるごとに詳しく聞き取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に一人一人の生活のペースや、健康状態、気分の上下などに気を配っている。毎日のバイタルチェック、排泄チェック、食事量などを個人の介護日誌に記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場介護職員を中心にケアマネージャー、施設長、管理者全員参加で、本人主体のケアプランを作っている。	入居者の様子を一番理解している担当の職員が主になり、日々の変化を申し送りノートで確認し、介護日誌も参考にして話し合っている。出来る事はできるだけ自分でやらせてもらう方針で計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	詳細な個人別の介護日誌を記録している。情報は誰でもすぐに見られ、共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本部を中心に、必要な業務改善、業務拡大も検討している。		

静岡県(グループホーム伊東 A)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の草取りに参加したり、ご近所の散歩、近くのコンビニでの買い物を通して、ホームのことを理解してもらうよう努めている。町内会に加入し行事参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医院に主治医を移行してもらい、それまでのかかりつけ医(歯科)などはそのまま継続して受診できるようにしている。	見学や入居時に話し、協力医からも説明をしてもらい、往診・定期健診がある等の利便性から協力医に移行している。協力医は他科の紹介や薬の調整、緊急時対応など相談にのってくれる。受診は事業所が行い、家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の訪問時や、主治医の往診時には必ず職員が同席し、本人の心身の状況を細かく報告し、指示ややり取りを記録している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	訪看、主治医、市民病院相談室、薬局との連携を密にしスムーズな入退院が出来る関係を築き上げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、看護師、ご家族、スタッフと連携し看取り希望の入居者の要望に可能な限り応えている。	入居時に家族と医師と事業所で細部まで話し合い、看とりの同意書を得ている。医師より指示を受けると、家族に医師から直接説明を受けてもらう。看とりの必要性は感じているし職員も意識の統一はできていて、経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応のマニュアル化や申し送り、連絡網の整備、定期的な避難、災害訓練、緊急通報の練習などを行っている。救急救命、AEDの講習会を職員全員受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の町内会の防災訓練にも参加し、協力体制を作っている。	年に2回日中と夜間に火事を想定した避難訓練を実施している。消防署の立ち会いでの訓練で中庭へ避難している。以前の地震の時には机の下に避難し、車椅子の人は座布団を使って身を守ってもらった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間としての尊厳を損なうことのない対応を心掛けている。	入居者には尊厳をもって支援している。声のトーンに配慮して呼び名は親しくなっても「さん」にしている。職員が体験した失敗談を共有して気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思や希望を自由に表現できる雰囲気、体制づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちを重視し、強制する事のない自由な生活が送れるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔の保持に注意をしながら、さりげなくコーディネイトのアドバイスをしたり、整った身だしなみが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけなど、危険がない範囲で手伝ってもらい、楽しい食事の時間を過ごせるように努めている。	食材は平日は毎日、週末はまとめて届く。調理専門の職員もいる。行事食は買い物に行き作っている。焼き芋大会をやったり誕生日には人数分のケーキをデコレーションして祝っている。家族が好物を持参して居室で食べることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の身体状況や、持病、嗜好を配慮しながら適切な栄養バランス、水分摂取量を保てるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを欠かさず、その人に合った口腔ケアの介護を実践している。		

静岡県(グループホーム伊東 A)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立排泄者も清潔が保てるよう下着の汚れのチェックや、失禁が出来るだけないようにトイレ誘導や声掛け、状態に応じてパットやリハパンの使用など、適切な排泄介助、自立排泄の継続のための支援を実施している。	チェックシートに詳しくデータをとり、パターンを把握して声かけしている。失禁時トイレで暖かい布できれいにするなど入居者の自尊心を傷つけないようまた心地よいように支援している。布パンツの人がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人に最適な便秘の解消、予防方法を考慮し実践、支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	強制することなく本人の意思に沿った入浴支援を心掛けている。	夜間希望があれば対応するが、今は希望がない。拒否者にはさまざまな方法で誘うが無理強いせず、足浴にするなどしている。男性介助者が好まない入居者には女性が介助している。入浴剤を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせ、就寝時間や昼寝を強制することなく、その人に合ったケアを提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医に本人の情報提供をし副作用や適量などに注意を払い、最適な処方してもらえるよう常に留意している。フローシートの活用や介護日誌に記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の嗜好に合わせて、楽しんで貰える様、音楽、唱歌、映像、回想法、塗り絵、読書、園芸、イベントの提供を心がけている。毎月毎月のカレンダー作りや玄関スペースの壁画作りをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のコンビニへの買い物、食材や調味料の買出し、お庭や周囲の散歩、外食行事、行政主催のイベントや地域のお祭りへの参加など出来る限り、外出して地域に溶け込んでもらう。	食材や調味料の買い物に職員と一緒に出かけている。花見等季節を感じる外出を心がけている。地域の祭りに浴衣で出かけ、好きなものを食べたり、選挙にでかけたりしている。	

静岡県(グループホーム伊東 A)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの利用料の支払いに対する不安が強い為、金銭は所持させていないが、新聞の折り込みチラシを利用して金銭感覚の保持や、買い物への付き添いを通して、経済感覚を無くさないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人と各ご家族の状況を踏まえ、ご利用者ごとに、電話やお手紙を通して、連絡をとってもらう。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その日の天気を考慮し、採光や温度管理を適切に行い、居心地のよい生活環境を提供する。利用者のお気に入りの居場所(ソファなど)を提供している。日向ぼっこのできる椅子や外を眺められるソファ、ガーデンチェア等。	温湿度はウイルスが発生しないよう職員は細心の注意をしている。テレビ音や会話のトーンに配慮し、食事中はテレビを止めている。手作りのカレンダーやぬり絵、行事毎の写真が掲示してある。歌が好きで多くハーモニカを吹く人にあわせ唄っている。席は入居者同士の相性を考慮して配置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お庭での飲茶や、晩酌、玄関のソファで外の景色を楽しんでもらったり、お部屋で会話を楽しくて貰える様、環境作りを行う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談して、ご本人らしい居住空間が出来るよう、なじみの家具、愛用の備品や仏壇の持ち込みを推奨している。落ち着いた室内装飾を心がけている。	ベッドの位置は日差しや窓からの風、起きやすさ、トイレ介助を考慮して変えている。又、入居者に合わせて布団を使用するなどその人に合わせた対応をしている。家から使い慣れたタンスや仏壇等を持ち込んだり、昔描いた油絵を掛けてありその人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることは出来る限り自立でやってもらいながら、車椅子に対応したバリアフリー、夜間の照明での安全の確保、手すりの設置による安全確保を行う。トイレの表示、自室の表札、テーブル上に席のシールなど。迷わない工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290400056		
法人名	ヘルスケアサポート株式会社		
事業所名	グループホーム伊東 B		
所在地	静岡県伊東市富戸1105-25		
自己評価作成日	平成27年3月31日	評価結果市町村受理日	平成27年7月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

皆が主役・皆で楽しく・皆が元気という基本理念に則り、入居者様おひとりおひとりの生活を尊重し、その人らしい生活が送れるよう、またおひとりおひとりが自信を持って、毎日を楽しく過ごせるよう最新の介護技術を取り入れながらケアをさせていただきます。地域の住民の皆様との交流も大事にしながら、豊かで静かな自然環境の中で、アットホームな運営を心掛けております。高原の別荘のような造りで、吹き抜けの天井にある天窗からは自然光が降り注ぎ、ご家族の方々がご自分の別荘のように気軽に面会に訪れていただけるようなオープンで明るいホームだと自負しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaiyokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2290400056-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年 4月23日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送り、ユニット会議などで、職員に日頃の活動の報告を受け、業務内容について、自己点検、アドバイス、改善を図っていく。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事の参加、地元への理解が得られるよう努めている。施設中庭をお茶の場を提供し交流を深めている。町内のお祭りに浴衣を着て参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の認知症あんしんマップに参加し、地域の認知症の相談機関として登録している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の方針、日頃の行事、活動内容の報告でサービスの説明を図り、同時にご家族の要望・ニーズの把握につとめ、介護に反映させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の認知症あんしんマップに参加し、地域の認知症の相談機関として登録している。地域包括支援センターの会議、研修に出席している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に身体拘束をしないケアを周知徹底させ理解させている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に虐待等が起こらないように気を配り、毎日職員からの報告を受けている。介護記録を書かせチェックもしている。		

静岡県(グループホーム伊東 B)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症講習会参加などを通して、理解の向上と実践について学ぶ。ご家族との連絡を密にして、利用者の取り巻く環境の向上を図る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書による周知や、家族会などを開催し、改定などの際は十分な説明を行っている。契約時には丁寧な説明はもちろんの事、じっくりと見学をしてもらい、疑問が残らないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会議の開催や、面会来所時の家族と担当者の会話などを介護職員全員に周知させている。家族とのコミュニケーションを大事にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や、日々の申し送りや連絡ノートを利用し、絶えず個々の意見を吸い上げ、改善を行う。オープンに意見が言える職場の雰囲気づくりを心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部にて行われる施設長連絡会議等を通して本部との意思疎通を図り、介護現場へ反映させていく。代表者と直接話せるホットラインを設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症講習会参加などを通して、理解の向上と実践について学ぶ。ご家族との連絡を密にして、利用者の取り巻く環境の向上を図る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護事業者の会に加盟し、定期的同業者の会合、勉強会に参加し情報交換や見学会等様々な交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の望み、不安、困りごと等を日々の介護を通して、解決できるよう努めている。出来ること、出来ないことシートやセンター方式も活用している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、不安などを受け止め、早期にご家族も安心して本人をホームに任せられる信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族、ケアマネ、管理者、介護職員で十分に話し合いをしケアプランを作成し、最適なケアを提供できるように努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の今までの人生、趣向なども考慮し一方的ならない介護を構築していく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いまままでご家族がされてきた介護やご本人との生活を考慮に入れ、家族の絆が切れる事のない関係、介護を常に考えながら支えていく。日常のご様子を報告する手紙、日常のスナップ写真の展示など。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人がいつでも気軽に遊びに訪れることが出来る雰囲気、環境づくりを心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が和気藹々と楽しく過ごせる環境、雰囲気づくりに重点を置いている。座席の配置にも最新の注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の要望にそって適切な支援を行い、地域の中での信頼を壊さないよう努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、一人一人の入居者とマンツーマンで向き合いお話を傾聴することを心掛けている。わからないことは家族に聞いている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族との対話に努め、昔の生活、性格、趣味嗜好などを入居時だけではなく、事あるごとに詳しく聞き取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に一人一人の生活のペースや、健康状態、気分の上下などに気を配っている。毎日のバイタルチェック、排泄チェック、食事量などを個人の介護日誌に記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場介護職員を中心にケアマネージャー、施設長、管理者全員参加で、本人主体のケアプランを作っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	詳細な個人別の介護日誌を記録している。情報は誰でもすぐに見られ、共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本部を中心に、必要な業務改善、業務拡大も検討している。		

静岡県(グループホーム伊東 B)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の草取りに参加したり、ご近所の散歩、近くのコンビニでの買い物を通して、ホームのことを理解してもらうよう努めている。町内会に加入し行事参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医院に主治医を移行してもらい、それまでのかかりつけ医(歯科)などはそのまま継続して受診できるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の訪問時や、主治医の往診時には必ず職員が同席し、本人の心身の状況を細かく報告し、指示ややり取りを記録している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	訪看、主治医、市民病院相談室、薬局との連携を密にしスムーズな入退院が出来る関係を築き上げている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、看護師、ご家族、スタッフと連携し看取り希望の入居者の要望に可能な限り応えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応のマニュアル化や申し送り、連絡網の整備、定期的な避難、災害訓練、緊急通報の練習などを行っている。救急救命、AEDの講習会を職員全員受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の町内会の防災訓練にも参加し、協力体制を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人間としての尊厳を損なうことのない対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思や希望を自由に表現できる雰囲気、体制づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちを重視し、強制する事のない自由な生活が送れるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔の保持に注意をしながら、さりげなくコーディネイトのアドバイスをしたり、整った身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけなど、危険がない範囲で手伝ってもらい、楽しい食事の時間を過ごせるように努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の身体状況や、持病、嗜好を配慮しながら適切な栄養バランス、水分摂取量を保てるよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを欠かさず、その人に合った口腔ケアの介護を実践している。		

静岡県(グループホーム伊東 B)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立排泄者も清潔が保てるよう下着の汚れのチェックや、失禁が出来るだけないようにトイレ誘導や声掛け、状態に応じてパットやリハパンの使用など、適切な排泄介助、自立排泄の継続のための支援を実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人に最適な便秘の解消、予防方法を考慮し実践、支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	強制することなく本人の意思に沿った入浴支援を心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて、就寝時間や昼寝を強制することなく、その人に合ったケアを提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医に本人の情報提供をし副作用や適合などに注意を払い、最適な処方してもらえるよう常に留意している。フローシートの活用や介護日誌に記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の嗜好に合わせて、楽しんで貰える様、音楽、唱歌、映像、回想法、塗り絵、読書、園芸、イベントの提供を心がけている。毎月毎月のカレンダー作りや玄関スペースの壁画作りをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近所のコンビニへの買い物、食材や調味料の買出し、お庭や周囲の散歩、外食行事、行政主催のイベントや地域のお祭りへの参加など出来る限り、外出して地域に溶け込んでもらう。		

静岡県(グループホーム伊東 B)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの利用料の支払いに対する不安が強い為、金銭は所持させていないが、新聞の折り込みチラシを利用して金銭感覚の保持や、買い物への付き添いを通して、経済感覚を無くさないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人と各ご家族の状況を踏まえ、ご利用者ごとに、電話やお手紙を通して、連絡をとってもらう。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その日の天気を考慮し、採光や温度管理を適切に行い、居心地のよい生活環境を提供する。利用者のお気に入りの居場所(ソファなど)を提供している。日向ぼっこのできる椅子や外を眺められるソファ、ガーデンチェア等。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お庭での飲茶や、晩酌、玄関のソファで外の景色を楽しんでもらったり、お部屋で会話を楽しくて貰える様、環境作りを行う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談して、ご本人らしい居住空間が出来るよう、なじみの家具、愛用の備品や仏壇の持ち込みを推奨している。落ち着いた室内装飾を心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることは出来る限り自立でやってもらいながら、車椅子に対応したバリアフリー、夜間の照明での安全の確保、手すりの設置による安全確保を行う。トイレの表示、自室の表札、テーブル上に席のシールなど。迷わない工夫をしている。		